

# ニジェール共和国における職業訓練の現状

九州ポリテクカレッジ 情報技術科 岩元 敏郎  
(九州職業能力開発大学校)

## 1. はじめに

2003年12月にJICA（国際協力機構）からの依頼で中央アフリカに位置するニジェール共和国に対し、職業訓練における技術移転についての可能性やCFPTのBT（中卒生を対象としたコース）、BTS（高卒生を対象としたコース）の養成訓練および向上訓練の概要説明、第三国研修受講者の現況調査等を通じて、養成訓練、向上訓練、第三国研修に対する要望調査を行い、今後CFPTで訓練を実施するための参考とするための調査を行った。約1週間滞在し、たくさんの施設、工場、学校などを調査した。結果として、ニジェール共和国に対し、日本が直接、日本人専門家による技術協力は、適していないという結論に至った。その理由を述べ、これからのアフリカにおける技術移転のありかたについて、1つの案を提案する。

## 2. ニジェール共和国の概要

ニジェール共和国は、1960年にフランスから独立し、今年で建国44年目の若い国である。首都は、ニアメであり、ブルキナファッソやベナンにかなり近いところにある。国の位置は、図1に示すように中央アフリカよりやや西側にあり、人口は、約1,100万人でその75%がイスラム教徒で残りがキリスト教徒などである。気候は、2つに大別され、北部は、ほとんどサハラ砂漠の中にあり、乾燥した砂漠気候で



図1 ニジェール共和国の位置

年間降水量が少ないが、南部地域は赤道や海に近いことから雨量が多く、湿度も高い。6月から9月までが雨季で11月から2月までが乾季である。主要産業は、農牧業、鉱業であり特にウランの生産が有名である。主要貿易相手国は、フランス、ナイジェリア、日本である。主要貿易品目は、ウラニウム、家畜であり貿易収入源の大部分は、ウラニウムである。経済は、伝統的な農牧業と70年代半ばより急成長したウラン産業により成り立っている。国内の経済状況は、非常に低迷している。原因は、累積債務、ウラン市況の低迷、天候不良による農産物の生産量落ち込み等である。現在でも内政上の不安定さが原因となって構造調整計画の円滑な実施が遅れ、国政の混乱からクーデター事件を招来しさらに悪くなっている。

## 3. 省庁構成

ニジェールの政府は、下記に示すように19の省庁

から構成されている。

- 外務・協力省
- 農牧省
- 商工業省
- 通信・文化省
- 国防省
- 国民教育省
- 高等教育・アフリカ総合工学省
- 経済・財務省
- 公務員・労働省
- 水利・環境省
- 内務・国土整備省
- 青年・スポーツ・国民連帯省
- 法務・人権省
- 鉱山・エネルギー省
- 計画・民営化省
- 観光・民芸省
- 保健省
- 公共事業・設備省
- 運輸省

#### 4. 雇用の一般情勢

ウラン市場の低迷や天候不良による農業の不振などで、各分野で労働者は、過剰気味である。政府は

各機関に対し、ニジェール人の雇用の呼びかけを行い、さらに、外国人労働者の規制を行っているが、それでも労働者は、過剰気味である。本来ならば失業率が何パーセントと言うべきであろうがそのデータがないのであえて“過剰気味”と表現した。それだけ政府が機能していないのである。しかし技能・技術を必要とする分野においては、技術者が不足している。技術者は、国内で得る賃金よりコートジボアールやトーゴ、セネガルなど外国へ行ったほうがニジェール国内より高い賃金を容易に得ることができるので、少し技能、技術を身に付けるとすぐに国外へ出て行ってしまふ。ニジェール国内で、技能・技術を必要としない分野においては、労働者は、過剰気味であるが、技能・技術を必要とする分野においては、不足気味であるという二極化が進んでいる。

#### 5. 視察スケジュール

以下のスケジュールでニジェール共和国の職業訓練の現状を視察した。

#### 6. 視察・調査結果

##### 6.1 BT, BTSコースの認知度について

CFPTのBT, BTSコースについて、ホームページにも掲載しているCFPTのパンフレットを持参し、

表1 視察スケジュール表

日付	時間	活動
2003年12月8日月曜日	19:15	ニアメ到着
2003年12月9日火曜日	8:00~13:00	職業訓練局表敬および協議 中等高等教育大臣表敬および協議
	15:00~16:20	職業訓練公社視察および協議
	16:30~18:00	NIGETECH視察および協議
	2003年12月10日水曜日	8:00~10:00
2003年12月10日水曜日	10:00~13:00	KALMAHARO技術センター視察, 調査
	15:00~16:30	EMIG (鉱山地質学校) 視察, 調査
	2003年12月11日木曜日	9:00~13:00
2003年12月11日木曜日	16:00~18:30	EMIG (鉱山地質学校) 視察, 調査
	2003年12月12日金曜日	9:30~12:00
2003年12月13日土曜日	0:30	ダカール着

各視察先の面談者に配布して説明，PRを行った。ところが，CFPTのBTコースへの国費留学生の派遣，1999年から2003年までのJICAの第三国研修への参加，さらに2000年から2003年までNIGETECH\*の資金提供によるCFPTでの向上訓練の実施の影響もあり，各視察先に必ずCFPTを知っている者がおり，PRを行うまでもなく，ニジェールにおけるCFPTの認知度は非常に高いことがわかった。また，面談者のほとんどが，ニジェールにもCFPTのような職業訓練センターを建設し，産業界のニーズに見合った養成・向上訓練を実施したいと要望し，ニジェールにおける訓練ニーズの高まりを感じた。なお，中等高等教育大臣を表敬訪問した際，CFPT紹介ビデオとパンフレットを渡しPRを行った。大臣は，CFPTのことはよく存じていてCFPTのような施設がわが国にもぜひほしいと言っていた。

\* NIGETECH：EUとILOによるマルチバイ協力。全国7ヵ所の職業訓練センターにて染色，木工，自動車整備に関する向上訓練を実施。CFPTでの向上訓練のように第三国における訓練実施にかかる資金提供も可能。



図2 ミッション系工業高校の校長とその職員

## 6.2 CFPTにおける向上訓練の認知度について

NIGETECHとJICAの第三国研修のほかにCFPTで行われている民間企業を対象とした向上訓練に関してはニジェール側は正確な知識は持っていなかったため，各視察先にて積極的にPRを行った。なお，LEP ISSA BERI（ミッション系工業高校）およびKALMAHARO技術センターを視察したが，視察時

に向上訓練を実施しているところはなかった。ただ，EMIG（鉱山地質学校）では，12月10日，11日の2日間にわたってセミナーを行っていた。参加費は有料で，学校の収入の一部として運営費に充当されるのであり，CFPTと同様，自主財源による健全な運営に取り組む姿がうかがえた。

## 6.3 第三国研修受講者の現況について

第三国研修に参加した5人について，職業訓練局に現在の状況を尋ねたところ，そのうち22人が職業訓練センターの所長に昇格していた。残りの3人はLEP ISSA BERI（ミッション系工業高校）に勤務していたため，直接会って話をした。彼らは「第三国研修は非常に高度な内容で興味深かったが，ニジェールではしかるべき訓練施設と必要な機器がなく，学んだ知識と技術を訓練の現場で役だてられないのが残念だ」と言っていた。

## 6.4 施設の規模および機器のレベルについて

- ① LEP ISSA BERI（ミッション系工業高校）では，機械科，電子科，冷凍空調科，印刷科，情報技術科を視察した。情報技術科を除いてすべての科で機材，機器の不足，また機器があっても古すぎるといった問題が見受けられた。ただ，情報技術科においては，ネットワークを完備し，それが衛星回線でインターネットにつながっていて，使用されているパソコンのOSがWindowsXPであり他科と比べるとかなりの技術格差があった。
- ② KALMAHARO技術センターでは，自動車整備科，機械科，電子科，情報技術科を視察したが，自動車整備科，機械科，電子科の実習場においては，機材がほとんど見られなかった。電子科では，古い電流計，電圧計などが数台あるだけで，それを測定するための電子回路実習装置などもなかった。
- ③ EMIG（鉱山地質学校）にはアフリカ銀行（BAD）の支援で建設された新築の実習場，研究室があった。全室冷房設置，天井からとれる電源，明るい蛍光灯など，日本の実習場に匹敵する立派

なもので、特に実習場の面積は広く、300m<sup>2</sup>以上はあったと思われる。鉱山開発、地質調査に必要となる、強電関係の機材、モータ制御シミュレータ、顕微鏡など高価な機材が配備されていた。コンピュータールームでは、IBMの古いパソコン（だいたい15年前くらいの製品）が動いており、電源の入っていないミニコンが2台置いてあった。ただし、講師側のパソコンでは、Windows XPが搭載されており、それがインターネットにつながっていた。また、金属加工用の機器は、1980年のフランス製であった。

### 6.5 実施されている訓練内容について

EMIG（鉱山地質学校）においては、CFPTのBTSコースに相当する内容のものが実施されているようであるが、視察した機器、機材の状態から推測すると、計画されている訓練コースが実際に実施されているかどうか疑問が残る。また、LEP ISSA BERI（ミッション系工業高校）やKALMAHARO技術センターでは、訓練内容についての資料がなく、入手することができなかった。また、訓練のための機材もテキストもない状態であった。なお、KALMAHARO技術センターの情報技術科に、青年海外協力隊（JOCV）の隊員が1人配属されていた。実習場に古いパソコンが配備され、これからコースが立ち上げられるとのことであった。訓練の内容は、古いパソコンから基盤を寄せ集め1台もマシンを作り、それにWindowsやLinuxをインストールして稼働させたり、ネットワークの設定の訓練や、Office関係のソフトの操作の訓練を行う予定であるらしい。

### 6.6 第三国研修を含むCFPTで行われている訓練に対する意見要望

今回の調査でニジュールではCFPTに対して非常に好意的な印象をもっていることがわかったが、ニジュールで実施されている訓練内容（自動車整備、機械、電子、冷蔵・空調機器、印刷、情報技術）や訓練施設や訓練機器の整備状況を鑑みるに、CFPTで行われた第三国研修の内容が直接ニジュールの職

業訓練に貢献しているとは思えなかった。ニジュール側の職業訓練局長は、BTSの養成訓練により多くの学生を送れるようなパートナーシップを築きたいといていたが、専門家としての知見によれば、最先端の内容を研修したいニジュール側の要望は理解できるが、彼らを取り巻く環境において、それを生かす場所が存在しない以上、第三国研修の内容を見直す必要があると思われる。



図3 労働訓練局局長と局長室の様子

## 7. 提言

第三国研修の目的は研修で学んだことをすぐに国のために役立たせることであると思う。しかし、今の状況では、最先端の技術研修を終えても、それを役立たせる場所がなく無益である。職業訓練の目的の1つは、今必要な技術を習得させることであるので、やはりその国に合ったレベルの研修内容に修正すべきである。具体的には、船外機のエンジン整備、車の修理、配管、屋内配線、冷凍空調の整備、修理、金属加工、家電修理等基礎的な内容が適切であると思われる。しかし、技術者であれば最先端の技術を勉強してみたいであろうから、例えば折衷案で研修の半分以上を基礎研修、その残りを先端技術の研修を行うようにすればいいのではないかと思う。

また、JICAニジュール事務所から「日本がニジュールに対し職業訓練分野で協力するには、どのような方法があるか」を聞かれたので以下に述べる。ニジュールの職業訓練センターは、KALMAHARO技



術センターは中等高等教育省，EMIG（鉱山地質学校）は鉱山省といった具合に，各省庁ごとに設置されている。これが職業訓練分野の技術協力を難しくしている最大の要因であると思われる。まず，この分野の政策アドバイザーを派遣し，運営管理をある程度一元化を促進する。一元化が終わるとその次は，専門家の派遣であるが，日本からの派遣ではなく，例えばセネガルから専門家を派遣するようなかたちが望ましいと思う。ニジェールで必要な職業訓練のレベルは，端的に言えば日本の30年前のレベルであると思われる。このレベルの職業訓練ができる若い日本の技術者はほとんどいないが，セネガルには依然として存在するのである。無理に日本人を派遣しないで，セネガルの技術者を派遣することが最善の策だと思う。また，今回の調査でCFPTの設備，蓄積された教材，機器，スタッフのレベルが，近隣諸国よりたいへん優れていることが確認できた。CFPTはこれに慢心せず，留学生受入れ，向上訓練そして第三国研修と，近隣国の人々のために職業訓練の機会をさらに拡充していくべきであり，このセネガルを中心に近隣諸国がさらに発展，繁栄することを期待したい。アナン国連事務総長が日本の常任理事国入りに対し賛成しているというような記事が出て後日修正された事件があったが，やはり日本という国が世界で認められるようにする活動の一環として職業訓練分野での活躍は，不可欠であると思われる。私は，このような任務に参加できたことは，非常にうれしく思う。セネガル職業訓練センターが今も高い評価を受けて，稼働しているのも雇用・能力開発機構職員の努力の賜物である。これからも機構に対する職業訓練分野での協力依頼が来るであろうが，率先して協力すべきである。九州職業能力開発大学校，雇用・能力開発機構の人材および，その協力姿勢に対し外部からの大部分は評価が高いのであるから，これからもどんどん，海外へ人を送り国際色豊かな人材バンクになればまた違う評価もできて機構が，もっと繁栄するのではないかと思われる。私もまたチャンスがあるならば，日本の国益，機構のため貢献したいものである。最後にセネガル職業

訓練センター拡充プロジェクトの最中に3階建ての実習棟が2004年12月に完成して盛大なパーティが開かれセネガル側に譲渡された。その建物の概観，内装などの写真が手に入ったのであわせて掲載することとした。なおこの写真は，元プロジェクトリーダーであった船場 専氏より寄贈されたものである。



図4 CFPTの新棟の外観



図5 新棟の内部



図6 新棟オープニングセレモニー